

第 8 期 柏市 高齢者いきいきプラン 2 1 の実績について
(令和 4 年度 取り組み編)

－ 総括版 －

【評価の目安】

- ◎：計画を上回って進んでいる・・・・・・・・・・・・・・・・100%超
- ：ほぼ計画どおり進んでいる・・・・・・・・・・・・・・・・80～100%
- △：計画よりやや取り組みが遅れている・・・・・・・・60～80%
- ×：計画の取り組みが遅れ，見直しが必要である・・60%未満
- －：未評価（新型コロナウイルスの影響により評価不可も含む）

※評価は，指標の達成状況のみで判断するのではなく，事業全体を総合的に評価しています。

（令和 5 年度 柏市 健康福祉審議会 第 1 回 高齢者健康福祉専門分科会）

政策目標	重点施策	令和4年度									
		◎		○		△		×		－	
健康寿命を延伸し いきいきと暮らせる	フレイル予防・健康づくりの推進	2	(2)	6	(6)	0		0		0	
	多様な社会参加の促進	0		4	(3)	2	(1)	0		0	
	小計（14事業）	2	(2)	10	(9)	2	(1)	0	0	0	0
		14.3%		71.4%		14.3%		0.0%		0.0%	
助けが必要でも 住み慣れた地域で 安心して暮らせる	地域での支えあい体制の推進	2	(2)	4	(2)	2	(2)	0		0	
	多様な生活支援ニーズに対する支援	1	(1)	2	(1)	0		0		0	
	認知症施策の推進	5	(3)	1		1	(1)	0		0	
	小計（18事業）	8	(6)	7	(3)	3	(3)	0	0	0	0
	44.4%		38.9%		16.7%		0.0%		0.0%		
介護度が重度で あっても望む暮らしを 選択できる	介護サービス等の基盤整備	0		6		1	(1)	0		1	
	介護保険制度の持続可能性の確保	0		3	(1)	3	(3)	0		2	(2)
	在宅医療・介護の連携の推進	2	(2)	3	(3)	2	(2)	0		1	(1)
	小計（24事業）	2	(2)	12	(4)	6	(6)	0	0	4	(3)
	8.3%		50.0%		25.0%		0.0%		16.7%		
意思が尊重され 自立して暮らせる	地域包括支援センターの機能強化	2	(1)	2		0		0		0	
	権利擁護の充実	6	(3)	1		1	(1)	0		0	
	多様な主体との地域づくりの推進	0		5	(1)	0		0		0	
	小計（17事業）	8	(4)	8	(1)	1	(1)	0	0	0	0
	47.1%		47.1%		5.8%		0.0%		0.0%		
合計（73事業）		20	(14)	37	(17)	12	(11)	0	0	4	(3)
		27.3%		50.7%		16.5%		0.0%		5.5%	

※（）内の数値は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業の数。

政策目標 1：健康寿命を延伸し いきいきと暮らせる

指標	2019 年度	2022 年度
初めて介護が必要になるかたの平均年齢 (歳)	80.7	81.8

この政策目標では、市民が主体となってフレイル予防に取り組めるように進めているほか、社会参加の促進を図り、高齢者が活躍できる地域づくりを進めています。

令和 4 年度については、かしわフレイル予防ポイントのポイント付与環境の整備や周知啓発の取り組みを進めたことなどもあり、フレイル予防ポイントカードを利用する市民数は 2 万人を超え、指標の 6 千人を大きく上回っているほか、フレイルチェック講座の開催を希望する団体が増え、令和 3 年度の実績に比べて参加者数が倍増しました。フレイル予防についての認知度や、フレイル予防に取り組む人数は着実に増えており、市で把握できていない部分においても、多くの高齢者の健康意識が以前よりも高まっているのではないかと推察されます。

一方で、高齢者の社会参加の促進に向けた取り組みは、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものが多く、友人・知人と会う頻度が高い人の割合も前回の調査時よりも低い結果となりました。高齢者が多様な社会参加を果たし、活躍できる地域づくりを進めていくことは、フレイル予防や、地域の活動の担い手の確保にもつながることから、引き続き社会参加の促進に向けた取り組みを進めていく必要があります。

政策目標 2 : 助けが必要でも住み慣れた地域で安心して暮らせる

指標	2019 年度	2022 年度
認知症のかたの在宅率 (%)	63.2	64.5
軽度者（要支援 1 から要介護 1）の要介護度の維持・改善率 (%)	61.9	60.9

この政策目標では、たすけあい活動の周知や、活動の担い手及び利用者の確保など、住民主体の支えあい活動への継続的な支援を行うほか、生活困窮者・障害者・ひきこもりなどを含む複合課題を抱えたかたへの対応、認知症施策の推進などに取り組んでいます。

支援を必要としている人が身近な地域でその人らしい生活を送れる社会を目指し、柏市重層的支援体制整備事業を開始しています。先行して実施していた包括的相談支援事業に続き、令和 4 年度は、多機関協働事業を推進しました。複合的な課題に対応する「福祉の総合相談窓口」の令和 4 年度の相談件数は、令和 3 年度から増加していますが、少子高齢化の進行などの社会環境の急速な変化に伴い、今後も支援を必要とするかたの増加が見込まれることから、引き続き、柏市重層的支援体制整備事業を推進していく必要があります。

また、認知症施策については、令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を受け、認知症サポーター養成講座の受講キャンセルや開催延期が発生しましたが、地域包括支援センターと居宅介護支援事業所、介護サービス事業所などと連携し、多世代向けの啓発を重点的に行い、認知症の正しい知識と理解の普及・啓発に努めました。今後も認知症のかたが増加していくことが見込まれるため、高齢者だけでなく、若年層も含めた早期の対策や認知症に対する認知度の向上に向けた取り組みを効果的に進めていく必要があります。

政策目標 3：介護度が重度であっても望む暮らしを選択できる

指標	2019 年度	2022 年度
生活に満足していると答えたかたの割合 (%)	35.5	34.4* 36.3
要介護 3 以上のかたの在宅率 (%)	49.6	50.6

※ 2 種類のアンケートを実施

この政策目標では、介護度が中・重度になっても必要なサービスを受けることで、本人やその家族が望む暮らしを最期まで選択できるよう、介護サービスの基盤整備や在宅医療と介護の連携の推進などに取り組んでいます。

介護サービスの基盤整備については、公募により認知症対応型共同生活介護を 2 事業者、定期巡回・随時対応型訪問介護看護を 1 事業者選定し、令和 5 年度末までに開設できるよう整備を進めています。

また、介護人材の確保に向けた取り組みについては、介護施設などの若手職員を中心とした研修・交流会「柏の^わ〇」を 3 年振りに開催したほか、「介護のしごと相談会」では、令和 3 年度に続き、2 年連続で 100 人を超えるかたの来場がありました。また、初任者・実務者研修の受講費用の助成についても、事業者への丁寧な周知を行い、助成件数が前年実績を大きく上回る結果となりました。令和 5 年度以降も介護人材の確保・質の向上に向け、継続して取り組みを進めてまいります。

在宅医療・介護多職種連携の推進に向けた取り組みについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中で、オンラインを活用して「顔の見える関係会議」を圏域会議を含めて 6 回実施し、その後のアンケートにより、オンラインでも多職種連携の効果が得られることがわかりました。令和 5 年度以降も実施方法を検討しながら、多職種連携の推進に向けて取り組んでまいります。

政策目標 4 : 意思が尊重され自立して暮らせる

指標	2019 年度	2022 年度
住んでいる地域に愛着があると答えた人の割合 (%)	79.0	78.9

この政策目標では、高齢者人口の増加に伴う、相談支援の増加に適切に対応するため、地域包括支援センターの機能強化に取り組むほか、高齢者が尊厳を持って安心して生活ができるよう、権利擁護の充実に向けた取り組みなどを進めています。

地域包括支援センターへの相談件数は、新型コロナウイルスの影響で減少していましたが、令和4年度は1万5千件を超え、徐々に増加してきました。高齢化の進行により、今後も困りごとを抱える高齢者が増加していくことが見込まれることから、関係機関と連携を深めていくとともに、地域包括支援センターの周知・啓発を継続して行ってまいります。

また、市と地域包括支援センターの連携のもと、高齢者虐待の通報があった場合に迅速な対応を行ったほか、関係機関との連携により、虐待の早期発見・早期対応に取り組み、適正な支援により介護保険サービスの利用につなげることで、高齢者の緊急一時保護につながる事案が前年度よりも減少しました。令和5年度においても、関係機関との連携により、高齢者虐待の防止に向けて、適切な支援に取り組んでまいります。

また、地域の身近な福祉の相談窓口である地域いきいきセンターについては、令和4年11月、市内9カ所目となる増尾地域いきいきセンターを開所しました。令和5年度は新田原地域での新規開設を目指してまいります。

総括

指標	2019 年度	2022 年度
幸福感がある人の割合 (要介護認定を受けていないかた) (%)	47.2	49.8
幸福感がある人の割合 (要介護認定を受けているかた) (%)	37.5	37.4 [※] 37.8

※ 2 種類のアンケートを実施

「第 8 期 柏市高齢者いきいきプラン 2 1」の目指すものである基本理念「すべての高齢者が、その人らしく、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまち 柏」の達成に向けて令和 3 年度から 3 年間で計画期間として各事業に取り組んでいます。

第 8 期の 2 年目である令和 4 年度における各施策の取り組み状況については、新型コロナウイルス感染症による影響を引き続き受けているものの、感染対策を講じた活動や、オンラインを活用した取り組みなど、感染状況を踏まえながら社会活動を止めない工夫を続けてまいりました。

現時点では、新型コロナウイルス感染症の影響により、要介護認定者数や介護保険給付費が急増するといった状況は確認されていません。

また、第 8 期 柏市高齢者いきいきプラン 2 1 の最上位指標である幸福感がある人の割合も、いずれも 3 年前の調査結果に比べて増加しています。

2040 年を見据え、これらの状況の維持・改善を目指し、引き続き各事業についての課題などを意識しながら取り組みを進めてまいります。